

食物アレルギー相談援助研究会 公開講座

食物アレルギーの子どもを受け入れる環境をつくろう！

食物アレルギー相談援助研究会は、子どもをまんなかに社会全体で考え、みなさんと一緒に作っていく場です！ぜひご参加ください！

定員 50 名



事前申込制 参加費無料

日時

2019年
9月7日(土)
9:00~12:15
(受付開始 8:45)

会場

同志社大学
今出川キャンパス
扶桑館 103 教室

対象

- ・地域子育て支援拠点事業（つどいの広場）スタッフ
- ・子育て支援員
- ・子育て支援ボランティア
- ・子どもに接する方



つどいの広場での食物アレルギー対応についてまとめた冊子を差し上げます☆

講演

①楠 隆 先生

「こどもの食物アレルギーについて」

滋賀県立小児保健医療センター小児科主任部長兼診療局長、京都大学医学部臨床教授、日本アレルギー学会指導医・専門医

②空閑 浩人 先生

「相談援助について」

同志社大学社会学部教授、社会福祉士

後援

京都府・京都市・京都府教育委員会・京都市教育委員会・(社福)京都府社会福祉協議会・(社福)京都市社会福祉協議会・(一社)京都府保育協会・(公社)京都市保育園連盟・(公社)京都府私立幼稚園連盟・(公社)京都市私立幼稚園協会・(一社)京都社会福祉士会・(一社)京都府医師会・(公社)京都府助産師会
滋賀県・大津市・滋賀県教育委員会・大津市教育委員会

◆お問合せ・お申込み◆

認定 NPO 法人 FaSoLabo 京都

(旧名称：アレルギーネットワーク京都ぴいちゃんねっと)

メール：office@allergy-k.org (件名に【研究会講座】と記載してください)

TEL/FAX：075(252)5088 (月・水～土 10:00～16:00)

HP：http://www.allergy-k.org/ (相談援助研究会のバナーよりお申し込み下さい)

右の QR コードより HP に直接アクセスできます！

〒604-8273 京都市中京区姉西洞院町 542 サンフィールドビル 3 階





※勉強会・事例検討会の参加は、9/7（土）開催の研究会公開講座の受講が必要です。

【勉強会】2月2日（日）

こどものアトピー性皮膚炎・スキンケア（講座・実習）

最近、乳幼児健診等で「スキンケア大切だよ」と、言われることが多くなってきています。

- ③何故、スキンケアが大切なのかな？ ③食物アレルギーとどう関係しているの？
- ③どんな石鹸が良い？ ③市販のスキンケア用品で良い？ ③塗り方は？

専門のお医者さんと看護師さんから正しいスキンケアについて学びましょう。

講座 松本 哲宜 医師（まつもとクリニック院長）

実習 笹畑美佐子 小児アレルギーエドゥケーター（滋賀県立小児保健医療センター 看護師）

☆同時開催☆ ●食物アレルギーの取り組み事例の報告会● 京都府こどもつながり応援隊事業補助金事業
2019年度、京都府内5か所で各地域の団体の方と協働で行った食物アレルギーの取り組みについての報告会です。
協働団体：NPO法人おひさまと風の子さろん すくすくひろば（福知山市）、ぱーぱの手（京田辺市）、
かめむすび&NPO法人亀岡子育てネットワーク（亀岡市）、西京アレルギーっ子の会（京都市西京区）、
食物アレルギー児の暮らしを考える会（長岡京市）

【事例検討会（ケースワーク）】3月14日（土）

実際に相談を受けている事例についての検討会

※参加者には、相談事例のレポート（定型様式あり）を全員ご提出いただきます。全ての事例から2または3事例を取り上げ、アドバイザー（医師・エドゥケーター・社会福祉士・患者児等）と参加者全員で一つ一つ丁寧に援助・対応について考えます。（守秘義務に相当する部分は事前にお問い合わせください）

☆これまでのケースワーク事例☆

ケース1 病院選び

3か月男児 皮膚に赤疹。

母親がアトピー性皮膚炎・食物アレルギーに不安を感じている。結婚を機に引っ越してきた地域のため、病院の情報が得られないまま、近くの病院へ。乳児にも関わらず、かなり強めのステロイドが処方されており、スキンケア指導もされていなかった。

ケース2 幼稚園でのアレルギー対応

年長男児 エピペン所持（卵）

入園3年目。幼稚園は、これまでも食物アレルギー児の受け入れは数例あるが、エピペン所持の子どもは初めて。

年中児の時のクッキングでは、卵を使ったメニューのため、同室内で大きな積み木で区切られたコーナーで一人で本を読んでいた。今年になって、園長先生から「エピペン講習を医師から受けたい」と申し出があった。

ケース3 重度アレルギー児の中学校での対応

中1男子・エピペン所持

微量混入でアナフィラキシーを発症（小麦・卵）

小学校では対応可能だった給食が、中学校入学を機に不可となった。中学校は、今春管理職が2名とも異動となり、全教職員の関係性も再構築中。食物アレルギー対応への優先度は低い。

ケース4 発達障害を伴う食物アレルギー児

年少男児・エピペン所持（卵・乳・小麦・大豆など）

顔面・身体に激しく掻きむしった跡がある

主治医は地域の病院、負荷試験はF病院。F病院の担当医（アレルギー専門医）は発達障害も専門であり、発達障害の傾向ありと考えている。

発達障害からの「こだわり」によるものと思われる、極度の偏食があり負荷試験が進まない。保護者は、限られた材料で工夫してごはんを作るが、白ごはんしか食べないため、食事作りの「甲斐」が感じられず、かなり疲れている。

【会場】調整中（京都市内）

【時間】調整中

【定員】各回20名程度 先着順

【資料代】各回500円（予定）

- ・アレルギーの学び舎、アレルギー大学等で食物アレルギーの基礎知識を受講された方は「①こどもの食物アレルギーについて」は受講不要です（受講確認のため、受講年月日・講座をお知らせください）
- ・社会福祉士等の方は「②相談援助について」は受講不要です。（資格証をご提示ください）